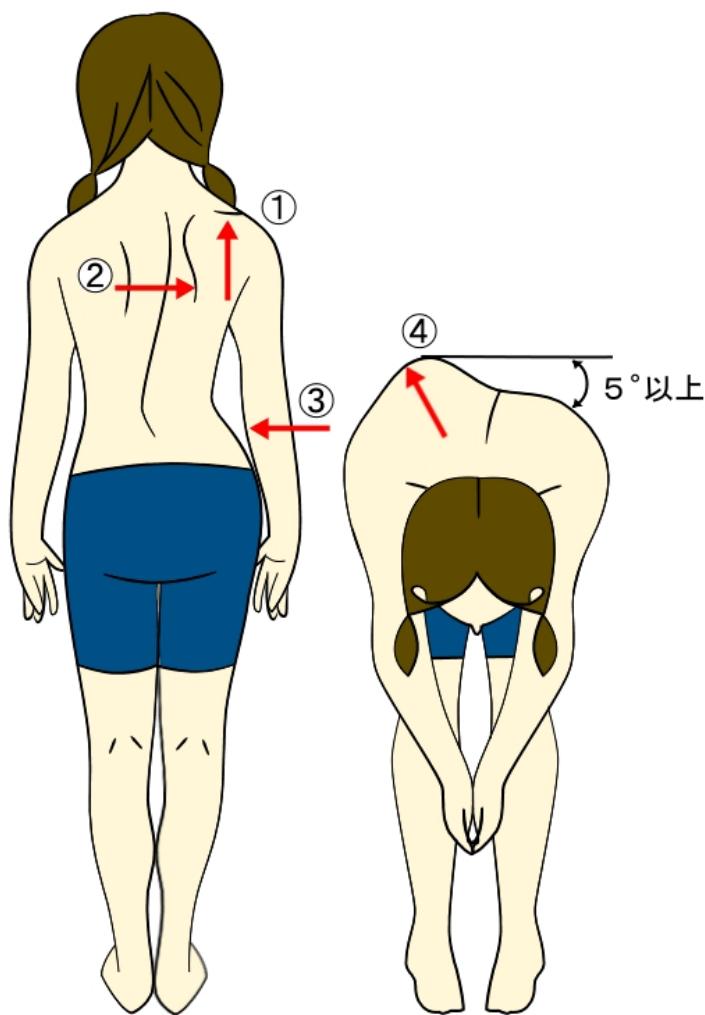


脊柱側弯症は ご家庭でのチェックが早期発見につながります

側弯症は小学校高学年から中学校時代に発症することが多いとされています。この時期には痛みなどの自覚症状がほとんど無いため、側弯症の発見が遅くなりがちです。早期に発見し、早期に適切な管理・治療を行うためにはご家庭でのチェックが大変有効です。



脊柱側わん症の調べ方

- ①両肩の高さに差があるかどうか
- ②両肩甲骨の高さや突き出し方に差があるかどうか
- ③左右のウエストラインの非対象性があるかどうか
- ④前屈させて、肋骨隆起や腰部隆起の有無およびその程度